# 西南学院小学校 学校長メッセージ
# 「学校通信 Wings 2024 年度 1 月号」

**「光の子として歩みなさい」（エフェソの信徒への手紙５章８節）**

「この学校の教育を受けることができて幸せでした。」

日本聾話学校で学んだ子どもたちや保護者の方たちが口にされたこの言葉が、西南学院小学校を巣立っていく子どもたちや保護者の方たちからは、果たして聞くことができるだろうか。挨拶として口にしてくださる方はいるかもしれないけれど、心の底からそう思ってくださる方は、何人いるのだろう…と日本聾話学校で一日過ごす中で考えていました。

【人間教育について学ぶ〈人間を育てる本質とは何か〉日本聾話学校の教育現場から見えてくるもの】という、昨年 11 月・12 月に行われた連続公開講座に参加させていただきました。 日本聾話学校では、生まれながらにして耳の聴こえない障がいのある子どもたちが、心と心を響かせ合う対話により、聴いて話すことを楽しむ人へと成長する実践がなされていることを以前から伺っていたので、一人ひとりの尊厳と可能性を見据える教育観・人間観を直接教育現場に赴き学ばせていただきたいと願っての参加でした。

西南学院小学校でも、子どもたちの命を預かり、豊かな成長を育むということを神様から託されていると分かっており、日々力を注いできたつもりでした。しかし、コロナ禍以降、子どもたちの日々の学校生活での様子は、より良い成長を遂げている生き生きとしたものかと問われれば、問題と課題が増え続けている状態です。（何かが違う。何かが間違っている）そう思う日々の中での日本聾話学校の子どもたちとの出会いでした。出会った子どもたちは、とても落ち着いていて満たされているようであり、発表する姿にも自信と喜びが満ち溢れているように思えました。そのような子どもたちや保護者の皆様、教職員の皆様との出会いを通して、子どもたちが溢れる愛の中で日々を過ごし、愛されていることを十分に実感することができていることが伝わってきました。静かな感動の中で、知らない間に何度も涙を拭っている私自身にも出会うことができました。

副校長先生が「特別な教員はいないのですよ。」と仰っていましたが、先生方が、毎日毎日一人ひとりの子どもたちとの対話やふれあいを大切にし、そしてそれらを丁寧に丁寧に繰り返されているその愛情の積み重ねこそが本当に尊く、教育の根幹となっていることを改めて教えられました。子どもたちが安心して自分の思いを言葉にしていく姿を目にしながら、日々の教育活動の中で欠けていた大切なものに気付かされました。

子どもたち一人ひとりが、高価で尊いものであり、素晴らしい存在であることを互いに認め合い喜び合う関係を西南学院小学校でもしっかり育てていきます。そして、「この学校の教育を受けることができて本当に幸せでした。」とすべての子どもたち、保護者の方たちに言われる学校にします。それぞれ神様から与えられた命を輝かせていくことを心から願い、祈ります。

愛による愛の教育実践を見せていただいた今、西南学院小学校が日々の教育活動を行っていくうえで「そこに愛はあるのか。」と絶えず問い続け、神様が西南学院に携わる者に与えてくださっている使命を果たしていきます。

新しい年もどうか宜しくお願いいたします。　　（文責　黒木佐幸）

※日本聾話学校は、東京都町田市にあるキリスト教精神による私立の聾学校です。